季刊 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第22号

Elementary Archaeological Report

てらこや埋文

2012年
今年度も…
春夏秋冬
特大号！

埋蔵文化財資料館リニューアルオープン！

季刊『てらこや埋文』も、年刊となって早２年。広報誌担当としては情けない限りの状態が続いていますが、これも当館が数々の業務に一所懸命（自転車操業的に）対応しているため！と自分を納得させつつ第22号を刊行させていただきます。

平成23年度も、当館にとって充実した１年となりました。まずは…なんと、埋蔵文化財資料館リニューアルオープンのご報告。

あわや『廃墟マニアの聖地』となりかけていた資料館が奇跡の復活！

当館は昭和52年（1977）３月に建設されました。その後、小規模な改修は何度か行われてきましたが、大規模な改修は先送りにされ、外壁は剥がれ落ち、鉄筋は部分的にむき出しに…。公共施設のバリアフリー化が常識となった近代社会に車椅子用のスロープもないまま当館はなんとか運営を続けてきました。しかし環境とは恐ろしいもの。次第に館員の心もすさみ、それが各種業務にも表れ、企画展示も場当たり的なものへと変貌し、人々の表情から笑顔が消えつつありました…ということにしておきましょう。

その状況が平成23年度末に一変することになります。なんと、入退館口に念願の車椅子用スロープが設置されるとともに、資料館進入路の大規模改修、そして館外壁の改修工事が実施されることとなったのです！

改修工事は第32回企画展『でた！～山口大学発掘調査速報展2011～』閉幕（平成24年１月27日）直後より開始されました。館全体が工事用足場と緑色の安全ネットで覆われます。その後響き渡るドリルなどの各種工事音。館内は異常な高揚感と焦燥感に包まれます。

そして約６週間後。ご覧ください、このモダンでスタイリッシュな進入路と安全に最大限に配慮したスロープ、そして生まれたての赤子の肌のような外壁を！

【改修前】その姿、まさに町工場

【改修後】なにか文化的な香りがそこはかとなく…

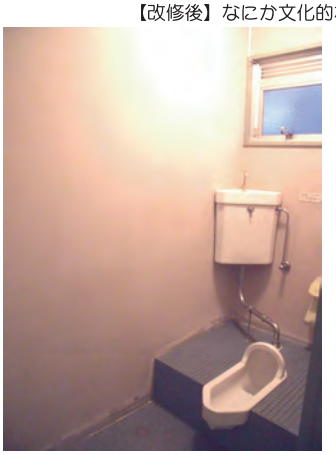
女神様も…

同時に、ある種当館のシンボルとも言えた昔懐かしい段差のある和式トイレともお別れすることになりました。当館歴代補佐員が精魂込めて磨き上げ続けたトイレと別れることに一抹の寂しさもありましたが、きっと女神様も満足してると思うよ、 君。

さて、改修されたニュートイレ。こちらもバリアフリー化が図られ、使い勝手の良いものとなりました。

改修工事を全て終えた資料館。３月11日より新たな展示を開催しています（５ページ参照）。私たちもリニューアルした資料館同様、新たな気持ちで平成24年度を迎えたいと思います。

（横山成己）

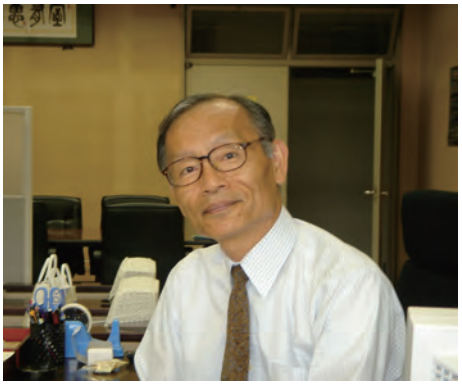


サヨナラ昭和…

これからも大切に使うからね！

纐纈館長 退任記念インタビュー ～就任２年間を振り返って～

平成 23 年度をもちまして、纐纈厚先生が埋蔵文化財資料館長を退任されることになりました。緊急企画として、退任を迎える館長に色々とお話しをうかがってみましょう。



今年度で退任の纐纈厚館長
２年間有り難うございました！（館員一同）

（質問）纐纈館長は人文学部に所属されており、日本近現代史・現代政治社会論を専門とされています。館長が研究対象とする時代とは大きく異なりますが、埋蔵文化財資料館も「歴史を調査・研究する」という意味においては同分野を業務内容としています。外部から見た資料館と館長として見た資料館で、印象の違いはありましたか？

（館長）そうですね。一言で表現するのは難しいのですが、歴史学者としての私が好んで使う「現在としての過去」という言葉があります。この言葉は反転して「過去としての現在」と換言可能です。当然ながら私たち現代に生き暮らす人間は、過去に規定され、過去から学び、現代と未来への生きる途を模索している訳です。

それゆえ、過去を知ることは現在を知ること、未来を語る資格を得ることだと思います。現代と未来に深い関心を抱き、洞察力を得たいと思うならば、過去と直接向き合う場に常に自らを置くべきかと思います。その点で資料館の業務は、現在と未来のために**「過去を探る」（＝過去を掘る）**ことであり、真理を探究する学府としての大学の極めて重要な役割に思います。

その意味で極めて大切な大学の施設である資料館の館長に就任することになったのは、私にとってはとても貴重な経験となりました。ただ、外部から見ていた資料館と館長として掌理した資料館とでは、大分違いました。

それは、何よりもかくも少ないスタッフと予算で、これだけの業務を堅実に果たしていることに、先ずは驚かされたことです。これは私の認識不足でした。それで館長として、何とか資料館の充実を図るべく努力しましたが、志半ばで辞任となってしまいました。私が出来なかったことは、次期館長に確りと引き継いで貰うことにしています。私は別の部署の統括責任者となりますが、資料館の充実のために可能な限り今後も支援していくつもりです。

（質問）館長には遺跡の発掘調査現場をたびたび視察いただきました。これまで発掘調査を間近にご覧になる機会はあまりなかったと思いますが、どのような感想をもたれましたか？

（館長）発掘とは物理的に大変な作業に思いました。同時に「過去を発掘」する作業な訳ですから、物理的な意味でも過去との対面の場として発掘調査があることに、あらためて深い感銘をうけた２年間でした。私も例えば、２年ほど前に学生を引率して金沢城を訪れたとき、そこで大規模な遺構調査を見学させてもらいましたが、この時に形状は変わっても、当時の歴史空間に迷い込んだ思いを致しました。その時、騒いでいた学生たちに向かって一喝したものです。「静かにしなさい。**当時の人たちが現在を生きる君たちに何かを語りかけている**のが聞こえないのか！」と。恐らく、発掘現場で出土する陶器の破片など実に丁寧に掘り出しながら、その破片からの語りかけに耳を澄ましながら、それゆえに黙々と作業を続けておられるのだと思ったりしています。

（質問）遺跡の保護を目的とする発掘調査以外に、資料館では展示業務、公開授業など様々な取り組みを行っています。一番印象に残る当館の取り組みは何だったでしょうか？

（館長）限られたスタッフで、平成 23 年度だけでも 13 件もの発掘調査に携わって頂いたことに、この場も借りて感謝したいと思います。それだけでも大変であったにも拘わらず、ユニークなアプローチとユーモアのセンス溢れたキャッチコピーも含め、企画展は実に楽しいものでした。その入館者数も結構な数ですが、問題はその多寡ではなく内実です。例えば、「遺跡に行こう！～家族で楽しむ遺跡公園～」（第 31 回企画展）などは資料館が何故存在するのか、言うならば存在証明を見事に果たした企画でしたし、「でた！～山口大学発掘調査速報展 2011」（第 32 回企画展）は、発掘の実態を大学の内外の関係者と共有したい、とする熱い思いが込められた実に素晴らしい企画でした。

そのなかで私自身が一番印象に残る取り組みを一つだけあげるとすれば、社会教育活動の一環であった「第 11 回公開授業　古代人の知恵に挑戦！」でしたね。私も田植えや収穫の場に参加しましたが、主催者側であることを忘れ、すっかり一参加者として愉しんでしまいました。言い古された表現ですが、古代人の知恵の深さに感動するやら、感心するやら。文字通り全てが手造りで、**手を使うことこそが知恵**を使うことなのだと思い知らされました。

近代化・機械化のなかで、手を汚す・使うことを忘れてしまったことの、人間としての悔いのようなものさえ感じたものです。元来が土いじりや植物育成が好きな私は、20 年前ほど山口に赴任して田圃を借りて 20 種類以上の野菜や果物を植え込みました。また、我が家の猫の額ほどの庭に所狭しと沢山の庭木を植えこんで悦にいっていますが、**土を忘れた人間は、何か大切なものを忘れてしまった**感がします。最も忘れていることさえ、“忘れている”のですが…。

（質問）館長の在任中、国史跡見島ジーコンボ古墳群出土資料を対象とした「館蔵資料調査研究報告書」の刊行をスタートさせ、平成 22 年度には山口県大学博物館連携事業、平成 23 年度は図書館を加えた山口県大学 ML 連携事業をスタートさせました。生みの親が纐纈館長となるこれらの事業に対し、今後どのような発展を望まれますか？

（館長）膨大な資料の発行と集積は、過去と現在を繋ぐ架け橋です。その架け橋を常に補強し、逞しくしていくことが資料館のとても重要な使命に思います。その意味で報告書の刊行は、優れて意義深いものに思います。それは同時に大学の社会的役割にも資するものです。ＭＬ連携も全く同質のコンセプトにより推進するものです。博物館と図書館は、本来果たすべき役割は同一です。それは保存する形状こそ違え、人間の知識と成果を保存・保守し、人間が営々として築き上げてきた文化や文明を有形にして残すことで、人間の進むべき道標とも成ろうかと思います。今後、一段とＭＬ連携が深まることを期待していますが連携の向こうにＭＬを一体化・統合化した“総合博物図書館”的な施設なり、コンセプトなりが構想される時代が来ると思います。

そうした一体化・統合化には、まだまだ多くの議論や合意形成が不可欠ですし、何より大学だけでなく、そのような施設やコンセプトを受容する世論の高まりが求められます。広い意味で、文化なき時代の予感もしない訳ではありませんので、文化や情報を形にした**“総合博物図書館”**充実への意欲と構想力を逞しくし、磨いておく必要がありますね。その点からも、長期的な視点と文明論的アプローチを併せ持った事業の発展を望みたいと思います。

古代米の田植えに挑む纐纈館長
（平成23年度公開授業の一風景）

（質問）山口大学において、資料館は学内外問わず誰でも入れる数少ない施設です。従来こうした地域・社会連携面において評価をいただいていた資料館ですが、さらなる発展に向けて資料館が進むべき方向はどこにあるとお考えですか？

（館長）先に述べた事と一部重複しますが、資料館は本学の言わば**文化の拠点**として、これまで以上に大学内における**認知度を高める努力が肝要**かと思います。大学はある意味で文化を創造し、保守し、伝承する拠点であるわけですが、その大学の使命を果たすうえで充実した資料館は、絶対に不可欠な存在です。また、その使命を果たすことで大学は地域社会からも尊敬される「知の広場」となっていくはずです。そうした大きな使命を負っているのだ、との自覚と責任を踏まえ、これからの資料館の在り方を鋭意検討していくべきだと思います。

経費など沢山の重要課題がありますので、直ちにとはいかないでしょうが、やはり私の言う“総合博物図書館”的な施設の充実確保は、大学が大学としての使命を帯びる限り、将来に向けて構想し、そのためのノウハウの蓄積だけは怠ってはならないと思います。大学の品格をも示し得るような施設や人材の確保は、どのような時代や社会状況にあっても不可欠です。そうした展望を熱く語り続けるべきかと思います。

（質問）最後に、大学情報機構長、図書館長、そして資料館長を同時に勤められました。山口大学は図書館とメディア基盤センター（情報センター）、そして埋蔵文化財保護組織を一つの組織としてまとめている、全国でもめずらしい大学です。この２年間で、その利点であるところはどこにあると思われましたか？ また、３組織が一体となっていることで不利益と感じられた点があるとしたら教えてください。

（館長）大学情報機構長を引き受けるにあたり、それまで抱いていた本機構のイメージなり、役割期待が大分異なっていたことに日々気づくことが多かった二年間でした。この二年間は、率直に言って私の大学人としての生活のなかで大変充実した時間であったように思います。それに本機構の教職員の方たちと一緒に仕事が出来て、心から感謝の気持ちで一杯です。資料館にせよ図書館にせよ、また、メディア基盤センターにせよ、それまで蓄積されたノウハウを果敢に実践に移され、求める方向を明確に自覚されたスタッフばかりでしたから、その流れを確実に、さらに堅実に推し進めるために私なりに微力を尽くしたつもりではあります。その意味では、本当に本機構の全スタッフの方たちに助けられた二年間でした。

「大学情報」というキーワードの下に三つの組織を統括させて頂いた訳ですが、それぞれ有機的な関連性と人事交流を維持し得たのは、勿論スタッフの皆さんのお陰ですが、同時に本機構の組織の在り方によるところも少ないと痛感しました。本機構は文字通り地道な業務を確実に果たしていくという重たい使命を負っている訳ですが、三つの組織の相互連携は非常に上手くいっていると思います。そのことに慢心せず、今後とも重ねてスキルアップに心がけ、山口大学が誇り得る機構として今後一層充実していくことが、ひいては山口大学の発展の原動力となるものと信じていいます。

どうもありがとうございました。私たち館員にとっては「あっ」という間の２年間。各種役職をお持ちになる館長はそれ以上早く感じられたことと思います。纐纈館長は次年度より教育学生と国際・社会連携を掌理する理事兼副学長に就任されるとお聞きしています。これからも資料館の活動にご指導ご鞭撻いただきますよう、よろしくお願いします。

（横山成己）

埋蔵文化財資料館 平成 23 年度の展示活動

第 31 回企画展『遺跡に行こう！～家族で楽しむ遺跡公園～』を開催

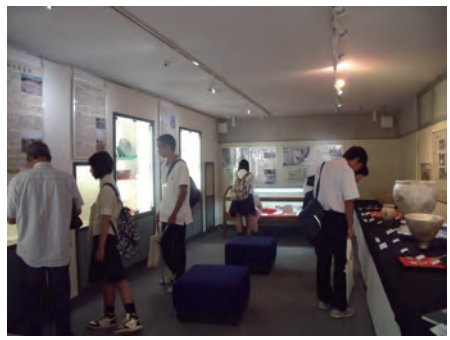
わが国では、遺跡の調査原因の大多数は土地の開発工事に伴うものとなっています。当館が本学キャンパス内で実施する調査もしかり。これら開発工事により消滅する遺跡を保護するために実施する調査を「緊急発掘調査」と呼びます。

緊急発掘調査では、出土した土器や石器などの遺物は大切に持ち帰られ、調査研究の後に収蔵・展示されることになります。つまり資料が後世に引き継がれることになります。一方で、土地自体に刻まれた歴史、住居跡や井戸跡などの遺構は調査中に記録として保存されますが、残念なことに調査終了後には破壊されてしまいます。

展示の見学風景①

しかしながら、幸運にも破壊を免れ、現地に保存される遺跡も少数ではありますが存在しているのです。そしてその遺跡の多くは、私たちが遺跡を知り、学べるように公園化され、私たちの身近に存在しています。第 31 回企画展示では、山口市に所在するそれら「幸運で貴重な遺跡」を紹介することにしました。

今回素材として取り上げたのは、先史時代から近代まで営み続けられた一大墓地である朝田墳墓群、室町時代、最盛期には西国 6 ヶ国を領有した守護大名大内氏の居館である大内氏館跡、古墳時代の山口盆地北部の首長墓と見られる天神山古墳群、未だ遺跡の全貌が明らかとなっていない仁保川流域の弥生時代墳墓群丸山遺跡、そして本学吉田キャンパスにて発見された弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落跡、吉田遺跡。



展示の見学風景②

考古学史において著名なものから、地元の方でもその存在に気づいていない（ことが多い）ものまで多種多様な遺跡公園を対象に、出土した実物資料と、調査中の写真と遺跡公園の現状写真を合わせて展示を行いました。さらに実際に現地を見学いただくため、遺跡公園へのルートマップを配布しました。

展示を見学いただいた方々からの反響は大きく、実際に現地を探訪しようとされた方からは「遺跡のすぐ近くまでは来てると思うんですが、遺跡が見つかりません！ どこにあるんでしょうか！？」といったお問い合わせの電話を受けることもしばしば。また、「せっかくの貴重な遺跡の現状がひどい。もっと有効活用すべきではないのですか？」という声も多数聞かれました。

私たちにとって、保存・整備した後の遺跡の活用方法には課題が山積されているようです。皆さんの声に真摯に耳を傾け、私たちの遠い祖先が残してくれた歴史財産を有意義に活用すべく取り組んで行きたいと思います。

第 32 回企画展『でた！～山口大学発掘調査速報展 2011～』を開催

数年に 1 度開催している当館の恒例企画、発掘調査速報展を開催しました。当初計画では平成 23 年度に実施予定の発掘調査によって出土した資料を展示する予定でしたが、遺跡にとっては幸運なことに工事計画の変更により発掘調査が中止となった案件も出たため、展示室の半分（オープン展示部分）を「発掘調査の方法」を紹介するコーナーとし、展示ケース部分にて平成 21 年度冬から平成 23 年度秋までに実施した山口大学構内遺跡の発掘調査成果を公開しました。

発掘調査成果展の展示は、①平成 22 年度に実施した 2 回に及ぶ医学部キャンパス（山口大学医学部構内遺跡）の本発掘調査成果　②平成 23 年度に実施した吉田キャンパス（吉田遺跡）の本発掘調査成果　③平成 21 年度に実施した吉田キャンパス（吉田遺跡）の立会調査成果　④平成 20 ～ 23 年度にかけて行った出土資料整理作業によって得られた成果　の 4 部構成としました。

企画展オープン日の風景

今回の展示で見学される方々に最も注目いただきたかったのは、③と④の部分です。

まず、遺跡の「立会調査」とはどのようなものかご存じでしょうか。実は、開発工事等に伴う埋蔵文化財保護対応には大まかに 3 つの方法が存在します。立会調査はその中の 1 つで、比較的小規模な開発工事等において、遺跡の破壊がごく小規模に止まると予想される場合、また

遺跡が破壊される可能性は低いけれども全くは否定できない場合に、私たち遺跡の発掘調査員が土地の掘削を行う工事中に現地で立ち会うことを示します。

いわゆる正規の発掘調査ではないため、立会調査で遺物等が出土すると、現場には緊張感が走ります。なにせ調査とは言え工事の最中。手早く遺跡情報を獲得し、出来る限り遺物を回収しなくてはなりません。ある意味では本発掘調査よりプレッシャーのかかる作業と言えるのです。今回は、その立会調査の模様と、出土した各種遺物を公開しました。

そして出土資料の整理作業中に明らかとなった新発見。発掘調査では、出土資料に関してもできるだけ現地でその内容を確認する必要があります。しかし、一方でどうしても現地で見落としてしまう情報も存在します。

企画展集団見学の模様
（狭い展示室で申し訳ありません！）

今回の展示では、平成 20 年度（2009）に吉田キャンパス農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う発掘調査で出土し、整理作業中の平成 23 年度（2011）に発見された「小さな文字が書かれた土器」を公開しました。虫眼鏡でもなければはっきりと読み取れない大きさで「安」と書かれた須恵器の破片。この資料を確認した時の驚きと嬉しさを皆さまにも伝えるべく、発掘調査報告書刊行前の段階でしたが特別公開に踏み切りました。

第 32 回企画展は、３ヶ月の開催期間中、500 名を超える方々にご来館いただきました。当館の「発掘調査速報展」は諸事情により毎年開催することはできませんが、公開に耐えうる資料が蓄積した段階で随時実施したいと考えています。

山口県大学 ML 連携企画巡回展
『風化させない記憶への一歩～自然とともに～』を開催

昨年度、当館は梅光学院大学博物館との連携により大学博物館連携第１弾 交流展『EXCHANGE! 山口大学埋蔵文化財資料館 × 梅光学院大学博物館』を開催しました。当館としても初の試みであるため、試行錯誤をくり返しましたが、「まずは行動」をモットーに、多くの方々に支えられながら無事に事業を実施することができました。

ただし、山口県に所在する大学で博物館施設を有しているのは本学と梅光学院大学のみという現実を前に、今後この取り組みをどのように発展させるのか、課題として残りました。

山口大学埋蔵文化財資料館会場の展示模様

平成 23 年度の連携事業を模索している中、2011 年３月 11 日、未曾有の災害が東日本を襲いました。当館は梅光学院大学博物館とともに、山口県の大学博物館ができることは何か、考え続けました。東日本から遠く離れた本州最西端にいる我々に直接的にできることは限られます。しかし「忘れない」ことはできるはず。そのような思いから、今回の災害を決して過去の記憶とさせないため、「人と自然との共生」をテーマに企画展を開催することとなりました。

山口大学総合図書館会場の展示模様

また、山口大学（山口市）、梅光学院大学（下関市）だけでなく、より広くこの思いを伝えるため、当館、山口大学図書館、梅光学院大学博物館、梅光学院大学図書館が主催となり、山口県大学図書館協議会との連携により、半年以上をかけて県内４大学を巡回する事業に取り組むことになりました。

当事業は、「風化させない記憶への一歩」であると同時に、山口県の大学Ｍ（ミュージアム）Ｌ（ライブラリー）連携の第一歩でもあります。各会場に足をお運びいただくことにより、会場が東日本被災地の方々との共感の場になることを期待しています。

会場では、東日本被災地の復興支援のため募金活動も行っています。復興はこれから始まります。ご協力お願いします！　（横山成己）

募金にご協力いただいた方に
「被災地支援カンバッジ」をプレゼント！

【巡回スケジュール】
- 山口大学会場　平成 24 年３月 11 日（日）～４月 27 日（金）
- 梅光学院大学会場　平成 24 年５月 11 日（金）～６月 26 日（火）
- 徳山大学会場　平成 24 年７月２日（月）～８月 10 日（金）
- 山口福祉文化大学会場　平成 24 年 10 月１日（月）～ 11 月９日（金）

今年も吉田キャンパスで古代米づくりに挑戦しました！
ー第 11 回公開授業ー

山口大学埋蔵文化財資料館では、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として平成 13 年度から公開授業を開催しており、今年度で 11 年目を迎えました。

今年度の公開授業は平成 18 年度から取り組んでいるテーマ、日本のお米のルーツとされる赤米を実際につくり、土器などで調理して食べてみるという内容です。授業は山口大学農学部附属農場と共催で延べ 4 回に渡って行い、小学生～高校生 5 人、教育学部学生 4 名、一般 19 名、合計 28 名の皆様に参加していただきました。

6 月 18 日（土）ー田植えー

今年度栽培した赤米の品種は「紅吉兆」という品種（もち米）です。当日は農学部技術専門職員の長砂さんに代かきをしていただいた水田に 23 名で田植えをしました。田植えが初めての参加者も多く、はじめは泥で足元がぬかるんで大変そうでしたが、田植え綱に合わせて声を掛け合いながら少しずつ移動し、無事に田植えを行うことができました。

7 月 30 日（土）ー稲の観察と土器づくりー

猛暑が続く中、幸いこの日は曇りでした。当日は長砂さんから水田に生える雑草についての説明を受け、稲のヒエの違いなどを学習しました。この後土器づくりに挑戦です。壺・鉢・高坏・土偶？など、思い思いに古代をイメージした個性的な土器ができました。

10 月 22 日（土）ー土器焼成と収穫ー

本来は 10 月 2 日（日）に開催予定でしたが稲の生長が大幅に遅れたため、日程を変更しました。まずは前回つくった土器の焼成を「覆い焼き」で行うため、泥窯づくりに挑戦しました。次はいよいよ収穫です。最終的に稲は長さ約 70 ～ 80 ㎝にまで生長しました。まず、模造した石庖丁などを使った穂摘みで収穫した後、残った稲を鎌で根刈りをしてはぜ架けをしました。土器は翌日の午後、ほぼ割れることなく焼き上げることができました。

11 月 12 日（土）ー脱穀・籾すり、赤米を食べるー

午前中は箸こぎ、臼と杵による籾すり、てみとザルによる選別を体験しました。午後からはいよいよ赤米の試食です。今回も昨年に引き続き、土器による炊飯のほか、模造した古墳時代の甑（こしき）と甕（かめ）、竈（かまど）形土器によって赤米を蒸すことに挑戦しました。また、炊飯は最新の研究成果に基づき、薪を放射状に配置する方法で行いました。約 1 時間後、竈形土器の赤米は見事に蒸し上がりました。炊飯したお米はやや水気がありましたが無事に炊きあげることができました。赤米は歯ごたえがあるものの美味しく甘みがありました。このほか、おかずには朴葉焼きや、豚汁、あさりのすまし汁をつくりましたが、これらも美味しく大好評でした。

公開授業を終えて

今回の公開授業は農学部附属農場で 4 回目の開催となりましたが、稲の生長が大幅に遅れたことが印象的で、改めて稲の栽培の難しさを痛感しました。原因は不明ですが、気候などの影響を受けた可能性があります。公開授業を終えて、参加者からは「授業をうけられて楽しかったです（小学生）」「食べられることのありがたさがよくわかりました（一般）」などの声が寄せられ、好評でした。

埋蔵文化財資料館では、来年度も古代米づくりに挑戦する予定です。どうぞご期待ください！

（田畑直彦）

田植え

穂摘み

収穫直前の赤米

箸こぎ

山口県内の博物館紹介 vol.22

おおすみ歴史美術館

山口県の温泉街、湯田温泉。県内外から保養に訪れる人や、萩や津和野などを観光する際の宿泊拠点として賑わっています。そんな湯田温泉の街中にあって、観光を支える地元企業が運営している美術館、それが今回ご紹介するおおすみ歴史美術館です。

おおすみ歴史美術館には山口県にゆかりのある先人達が残した書や絵画などの作品が展示されています。これらは山口市に本社を置きタクシーや観光バスなどの事業を行う大隅企業の創立者である、故大隅健一氏が収集・所蔵したものであり、平成８年におおすみ歴史美術館が設立して展示公開が始まりました。今回は、おおすみ歴史美術館の江戸康尹副館長にお話を伺いました。

（質問）おおすみ歴史美術館の設立した経緯をお聞かせ下さい

（回答）大隅健一氏が大変な歴史好きで、歴史書を読むことから郷土の先人達が書いた手紙や書状に興味を持たれて収集をはじめたそうです。山口に関わる資料を長年集められまして、人からの勧めや郷土の資料を地域に役立てられたら良いとの想いから、それを叶える形で現会長の大隅博志氏が湯田温泉にあるおおすみ観光バス車庫の２階を展示室として開館しました。

（質問）どのような展示品がありますか

（回答）書には幕末維新の頃に活躍した長州藩の先人達が記したものが中心にあります。たとえば伊藤博文の書や、久坂玄瑞、木戸孝允らの記した詩・和歌、山縣有朋や大村益次郎の手紙などがあり、他にも七卿落ちといった長州藩も関連する資料なども展示しております。絵画は江戸時代に毛利藩お抱えの絵師であった雲谷派を含め、森寛斎などの日本画を所蔵しております。刀剣と鐔（つば）は山口の刀工のものや萩の鐔師により作られた長州鐔などがあります。このように山口県とゆかりを持った方のものを中心としておよそ 250 点の資料の展示・公開を行っております。この他にも企画展で、萩焼などの県内資料を集めた展示も年に何度か行っています。

（質問）館の特色を教えていただけますか

（回答）展示室内に幕末維新関係の図書とＤＶＤのガイドをご用意しています。お時間のある方は調べ物に来ていただいても結構ですし、ＤＶＤは短編のアニメーションなので易しくわかりやすくなっております。また、当館は小規模なミュージアムな分だけ、館員である私と来館された方との距離が近いという利点があり、展示解説のご要望やお尋ねがあれば可能な限り何でも対応いたします。歴史好きの方はお話や相談もご一緒させていただいておりますので、ぜひご活用ください。

（質問）今後どのような館を目指されますか

（回答）湯田温泉という場所が保養地ということもあり、県外からいらして来館される方が多くあります。もちろん県内の方も気軽にお越し頂きたいと思いますし、歴史に興味を持ち、何か山口らしいものを見たいと思った方に、歴史的に日本の政治と深く関わった長州という存在を理解していただける、山口という場所を知るひとつのお役に立てると幸いです。

湯田温泉の街中で気軽に立ち寄ることができ、山口の歴史・文化に触れられるおおすみ歴史美術館。地元企業が大切に守ってきた地域ゆかりの歴史・美術品を見学しにお立ち寄りになってはいかがでしょう。

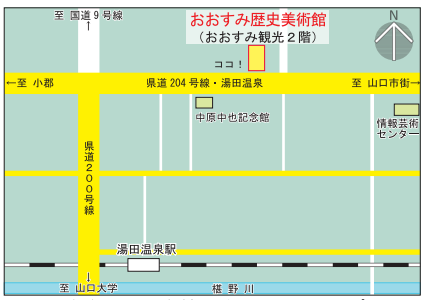
（松浦暢昌）

おおすみ歴史美術館　展示室

展示解説は江戸副館長がしてくれます。『展示品の解説から歴史好きの雑談まで、何でもどうぞ！』

湯田温泉の街中にあるのでアクセスしやすい

観光バス車庫の左側に入口があり2階が展示室



おおすみ歴史美術館アクセスマップ

お問い合わせ先

おおすみ歴史美術館
〒753-0056
山口県山口市湯田温泉 3-1-26
おおすみ観光２階
TEL　083-932-8862
休館日／火曜日（祝日の場合その翌日）
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://www.osumi-group.jp/

平成 23 年度　埋蔵文化財資料館の活動

4 月 2 /11 (金) ～ 5 /27 (月)

5 月
山口大学大学情報機構連携企画展
『資料に刻まれた記憶～文字・記号・印から読み解く～』開催
期間中入館者総数　489 名

5 月 9 日 (月) ～ 6 /25 (土)
吉田構内特高受変電設備棟新営に伴う本発掘調査第 (吉田遺跡)
古代の河川跡・ピット・杭列等検出

5 /18 (水)・21 日 (土)
梅光学院大学博物館学課程学生が資料館・発掘調査現場を見学

6 月 6 /18 (土)　第 11 回公開授業
『古代人の知恵に挑戦！古代のお米をつくってみよう 6 』
第 1 回授業 (田植え) 開催　参加者 23 名

6 /27 (月) ～ 10 月 7 日 (金)
第 31 回企画展『遺跡に行こう！～家族で楽しむ遺跡公園～』開催
期間中入館者総数　616 名

7 月 7 /25 (火) 白石構内教育学部附属学校案内板設置工事 (白石遺跡) で立会調査を実施

7 /30 (土) 第 11 回公開授業
『古代人の知恵に挑戦！古代のお米をつくってみよう 6 』
第 2 回授業 (稲の観察・土器づくり) 開催　参加者 19 名

8 月 8 / 1 (月)　光構内教育学部附属光小学校遊具設置工事 (御手洗遺跡) で立会調査を実施

8 / 3 (水)　白石構内教育学部附属幼稚園渡り廊下屋根拡張工事 (白石遺跡) で
立会調査を実施

9 月 9 / 6 (火) ～ 16 日 (金)
小串構内地域医療教育研修センター新営工事 (山口大学医学部構内遺跡)
で立会調査を実施

9 /12 (月) ～ 18 (日)
光構内教育学部附属光学校下水道接続工事 (御手洗遺跡) で予備発掘調査
を実施

10 月 10/22 (土)　第 11 回公開授業
『古代人の知恵に挑戦！古代のお米をつくってみよう 6 』
第 3 回授業 (収穫・土器焼成) 開催　参加者 13 名

11 月 11/ 5 (土)　～ 1 月 27 日
第 32 回企画展『でた！～山口大学発掘調査速報展 2011 ～』開催
開催中入館者総数　502 名

11/12 (土)　第 11 回公開授業
『古代人の知恵に挑戦！古代のお米をつくってみよう 6 』
第 4 回授業 (脱穀・古代食調理、試食) 開催　参加者 18 名

12 月 12/16 (金) ～ 1 / 6 (金)
吉田構内特高受変電設備棟新営工事 (吉田遺跡) にて立会調査を実施

12/22 (木)　吉田構内教育学部附属特別支援学校散水栓増設工事 (吉田遺跡) にて
立会調査を実施

1 月 1 /27 (金)　吉田構内基幹環境整備 (吉田遺跡) にて立会調査を実施

2 月 2 /21 (火)　吉田構内埋蔵文化財資料館スロープ取設他工事 (吉田遺跡) で立会調査
を実施

3 月 3 / 6 (火)　吉田構内農学部連合獣医学科棟横倉庫撤去・新設工事 (吉田遺跡) で
立会調査を実施

3 / 9 (金)　吉田構内第 2 学生食堂西側テーブル・ベンチ取設工事 (吉田遺跡) で
立会調査を実施

3 /11 (日) ～ 4 月 27 日 (金)
山口県大学 ML 連携企画巡回展
『風化させない記憶への一歩～自然とともに～』開催

3 /21 (水)　吉田構内農学部植物工場新設工事 (吉田遺跡) で立会調査を実施

吉田特高受変電設備棟新営に伴う発掘調査風景

梅光学院大学博物館学課程学生の発掘調査体験

吉田オープンキャンパスの 1 風景

公開授業火起こし体験の 1 コマ

教育学部附属光中学校生徒の資料館見学

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信
第２２号
『てらこや埋文』2012 春夏秋冬特大号

編集・発行
山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511　山口県山口市吉田 1677-1
【Tel/Fax】083-933-5035
【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp
【HP】http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuam-w/Shiryoukan.home/

発行年月日　2012. 3. 30.